

# がくどうigoサポート&キャラバン事業

川越igoまち倶楽部  
(2025年2月作成)

川越igoまち倶楽部は、「地域で子どもを育てよう!」との観点から、子どもたちが囲碁を気軽に楽しく学べる環境を整えるため、担当課と連携し、昨年度に引き続き「がくどうigoサポート&キャラバン事業」(囲碁の出前講座)を実施しました。

## 1 目的

- 子どもたちに、囲碁の楽しさ・面白さを知ってもらう
- 子どもの人間力を育む(思考力・集中力・判断力・忍耐力・変化への対応力・コミュニケーション力・礼儀など)
- 囲碁講師との世代間交流を通じ、安心感・自己肯定感を醸成する
- 学童保育・教育現場における負担軽減の一助とする



吉原由香里六段による囲碁勉強会

## 2 事業対象/担当課

- 川越市内の全小学校に併設する「学童保育」32校  
／教育総務部 教育財務課
- 放課後子供教室3校  
／教育総務部 地域教育支援課



囲碁教え方ガイド  
(入門指導者用・A4判16ページ)



囲碁講座の様子(放課後子供教室)

## 3 実施期間

2024年4月~2025年2月

## 4 事業内容

- 意見交換会・囲碁教え方勉強会(1日)  
参加者:市内囲碁団体キャラバン隊希望者等12名  
内容:事業内容説明、教え方講座、意見交換
- 放課後子供教室にキャラバン隊派遣(10日、13日)
- 各学童にキャラバン隊派遣の募集
- 吉原由香里六段による囲碁勉強会(25日)  
(学童保育支援員研修会として)  
参加者:学童保育支援員、キャラバン隊希望者等53名  
内容:講義、スマホアプリ説明、囲碁体験
- 放課後子供教室にキャラバン隊派遣(7月5日、9月30日)
- オファーのあった学童にキャラバン隊派遣(13回)
- 出前講座を実施した学童にアンケート調査実施
- 各学童にキャラバン隊派遣の募集(2学期~冬休み分)
- オファーのあった学童にキャラバン隊派遣(10回)
- 放課後子供教室にキャラバン隊派遣(11月29日、2月14日)
- 出前講座を実施した学童及び実施しなかった学童にアンケート調査実施

### 【キャラバン隊派遣状況】

#### 学童保育室

- 2024年7~8月(夏休み中)  
⇒以下の13学童を訪問、参加児童数 計294名  
泉(7/29) 霞ヶ関(7/30) 今成(8/1) 古谷(8/2)  
大東西(8/5) 福原(8/6) 川越西(8/7) 仙波(8/8)  
山田(8/15) 新宿(8/19) 霞ヶ関西(8/21) 月越(8/23)  
大東東(8/23)
- 2024年10月~2025年1月(2学期・冬休み中)  
⇒以下の10学童を訪問、参加児童数 計188名  
霞ヶ関西(10/21) 今成(11/1) 上戸(11/14) 広谷(11/14)  
古谷(12/25) 大東東(12/25) 武蔵野(12/26) 川越西(12/27)  
高階北(1/7) 山田(1/7)

#### 放課後子供教室

- 2024年6月~7月(1学期)  
⇒以下の2校を訪問、参加児童数 延べ62名  
川越小(6/10、6/13) 福原小(7/5)
  - 2024年9月~11月(2学期)  
⇒以下の2校を訪問、参加児童数 計47名  
霞ヶ関東小(9/30) 福原小(11/29)
  - 2025年2月(3学期)  
⇒以下の1校を訪問、参加児童数 14名  
福原小(2/14)
- ※1~3学期参加児童数 延べ123名

### キャラバン隊派遣実績

- ★学校数でカウントすると ➡ 18校
- ★訪問回数でカウントすると ➡ 29回
- ★参加児童数でカウントすると ➡ 延べ605名

## キャラバン隊とは？

- キャラバン隊編成：チーフ講師+サポートスタッフ（4～5名）
- 持っていくもの：解説用大盤（紙）、マグネット碁石、対局用7路/9路盤セット、碁教室チラシ など

## 寄せられた声

※学童の参加児童、学童保育支援員のアンケートをもとに作成  
（なるべく原文のままの表記としていますが、ひらがなで読みづらい部分は漢字にするなど、若干の修正をしています。）

### 参加児童より／碁を習って感じたこと



やさしく教えてくれて  
ありがとう！

#### 1年生

- ・どうすればあいての石がとれるかわかってたのしかった
- ・たのしかったけど、ちょっとむずかしかった
- ・うまくあたまをつかったら、うまくできた
- ・またらいねんもやりたい
- ・1回しかかてなかったけどたのしかった
- ・たのしくべんきょうができたよ
- ・線のところに石をおくのがびっくりした

#### 2年生

- ・碁とオセロのルールがちがうのがわかった
- ・碁をやったとき、たのしかったり楽しいときもあったけど、たのしかった
- ・やりかたはわかったけど、ずっとまけてくやしかった
- ・さいしょは碁はきらいだったけど、ためしてみたらたのしかった
- ・やさしい先生がやさしく教えてくれた
- ・かえったら、ママに碁をかってもらいたい
- ・たのしくて勉強になるし、むずかしいからたのしかった
- ・これからも碁をがんばっていきます

ルールがわかると  
楽しい！  
また来てね！



川越 igo マスコットキャラクター  
「かわ碁え丸」  
©川越 igo まち倶楽部

#### 4年生

- ・家族や友だちに碁のことを教えたいと思った
- ・教え方がすごいと思った
- ・3回目だけど、じんちをとるとするのはわすれていたの、思い出せてよかった
- ・石とりゲームがとても楽しかった
- ・まいかいやるたびに碁はたのしい
- ・碁はいろいろなやり方ができてすごいと思った
- ・説明がわかりやすかった

対局風景 ▶



子ども同士の対局



チーム対抗リレー碁

#### 5・6年生

- ・碁はかんたんなルールで子供から大人までできると知っておどろいた
- ・碁が好きになり、学童や家でもやりたいと思った
- ・チームになって、みんなと協力して碁が楽しく感じた
- ・1年ぶりの碁をしてとてもたのしかった
- ・頭がおかしくなりそうだけど、おもしろい
- ・陣地とりはむずかしかった

## 碁講座の内容

- 1 碁の基本ルールを大盤で解説（子どもの反応を見ながら、やさしく）
- 2 子ども同士でお試し碁体験（きめ細やかにサポート）
- 3 対局中に生じた疑問はみんなで共有（大盤で解説）
- 4 子ども、支援員、ボランティアも一緒に、チーム対抗「リレー碁」

### 学童保育支援員より

#### キャラバン隊を希望した理由

- ・昨年度に実施し、大変好評だった
- ・前年度お願いし、子どもたちが楽しんでやっていた
- ・毎年子どもたちが楽しそうにやっている
- ・子どもたちに新しい遊びを知ってほしかった
- ・学童保育室での恒例行事にしたいと考えた
- ・支援員では碁を教えることができない
- ・吉原由香里プロの研修で興味を持ち、子どもたちの夏の過ごし方にいい影響があると直感した
- ・遊びの幅が増えると良いと思った
- ・学童生活で色々な経験をさせたかった
- ・碁の楽しさを知って触れてほしいと思い希望した
- ・今年こそ室内遊びの一つとして定着してほしいとの希望をこめて



対局用碁盤セット  
とテキスト

#### 碁講座を実施して良かったこと

- ・じっくり一つのことに全員で取り組む試みは良い経験で、有意義な時間だった
- ・とても分かりやすくルールを理解することができた
- ・子どもたちはその後も集中して遊ぶことが続いており、遊びとして定着した
- ・支援員も「頭を使うけれど、とても楽しかった」と喜んでいて
- ・笑顔で講座を受けられ、想像以上に児童が碁を楽しめた
- ・子どもたちが集中して話を聞く姿が見られた
- ・各班に1人ずつ講師の方に見ていただけたのが良かった



積極的に前に出て問題を解く子ども

#### 感想・要望

- ・全員でやる連碁はもっとやっていたかったので、2時間くらい確保した方が良いのでは
- ・単発の教室なので、児童も碁をすぐに忘れ、なかなか碁で遊ばない。
- ・初めて碁をする子ども、理解できない子どもへのサポート、フォローがもう少しほしかった。
- ・参加人数の制限や参加者の教室を分けるやり方は疑問で、改善すべき点があるのではないかと
- ・講座の時間が長いと、児童の集中が切れてしまうので、もう少し短いと助かる
- ・1時間半は児童には厳しい
- ・大規模学童では、20名定員は厳しい
- ・準備（受講者決め、班分け）が大変なので、もう少し気楽に受講できると良い

#### 碁の出前講座で心がけたこと

～心身の発達段階である子どもに寄り添い、子ども目線で～

- ★興味を持ち、楽しんでもらうことが第一
- ★説明はわかりやすく、簡潔に
- ★「教える」のではなく、「気づき」を促すように
- ★碁を通して礼儀・マナーを实践
- ★世代を超えた講師との触れ合いで、安心感・自己肯定感を育む



石取りゲームに熱中

### 良かったこと

- 子どもたちのアンケートを読むと、低学年でも囲碁のルールを結構理解してくれているのが分かって嬉しかった。
- キャラバン事業も3年目となり、長期休暇中の恒例事業として定着。とくに、猛暑で外遊びができない夏休みは、室内遊びのプログラムとして、児童と支援員双方に歓迎されている。
- 星野学園囲碁部に協力を仰ぎ、部員の中高生が参加。お兄ちゃん先生は児童に大人気で、顧問の先生からは、囲碁部員にとっても学びがあり得難い体験になったと、感謝の言葉をいただいた。
- 碁石を放り投げる児童がいたので、大きめな声で注意したら、素直に取ってきてくれ、その後は質問にも手を挙げてくれた。「悪いことは悪いこと」と注意すれば小学生にも分かってもらえるものだなと嬉しく思った。
- 石が取れて喜ぶ姿や取られて悲しむ姿を見て自分が共感したり、質問に多くの子が積極的に答えてくれたり、お礼を言ったり言われたりなど、いろいろな場面で歳の差65歳以上の子どもたちとの「世代間交流」ができたことが良かった。

### さらなる工夫

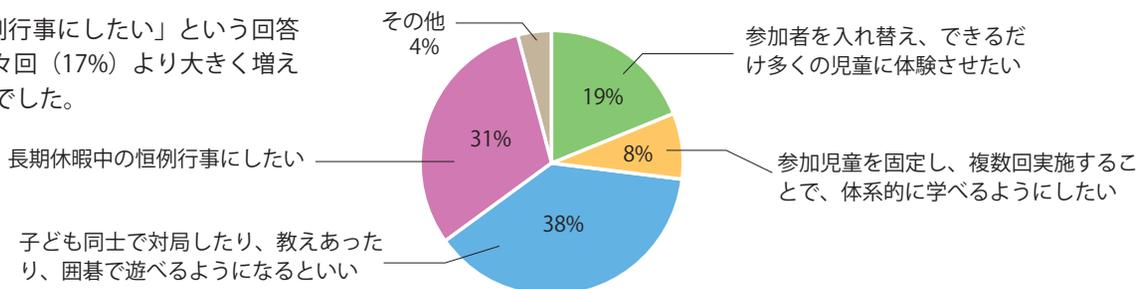
- 同じ子と対局を続けると、負け続ける子が出てくる。適宜相手を入れ替える必要があるのではないか。
- 参加する子どもの人数制限をしているが、再考の余地があるかもしれないと思う。
- 受講児童は、学年をそろえている場合と、学年が混在している場合がある。参加児童の顔ぶれは先方にお任せなので、状況に合わせて対応しているが、低学年にも楽しんでもらえるよう、講師対象の教え方勉強会でさらなる工夫をしたい。
- 囲碁講座を複数回体験した児童もいるので、初期の石取りゲームから、囲碁本来の陣取りゲームへどう進めるか。
- 学童側の事情も分かるが、あと30分は時間がほしいと感じる。
- 学童の支援員や放課後子供教室のボランティアの方々にどうしたら囲碁を習得してもらえるか、考える必要がある。
- なかなか集中できない子どもがいる時、どうやって囲碁に注意を向け、興味を持たせるか、知恵を出し合いたい。

### 新たな試み

- 当会が実施している「親子囲碁教室」や、市民と観光客がともに楽しむ「川越 igo キッズまつり」(毎年5月3日、蔵里広場)、「本丸御殿での親子囲碁教室」、秋の「川越囲碁まつり」などへの展開も検討したい。
- 来年度以降の事業継続には、他の囲碁団体、高校や大学囲碁部等との連携も視野に入れる必要がある。

## 囲碁講座 今後の方向性 ※学童保育支援員のアンケートをもとに作成

「長期休暇中の恒例行事にしたい」という回答が前回(8%)、前々回(17%)より大きく増えているのが特徴的でした。



### まとめ

学童保育支援員・放課後子供教室スタッフとその在籍児童、およびキャラバン隊員から、貴重なご意見をいただきました。それらの声に耳を傾けると、「がくどう igo サポート&キャラバン事業」が、教育や保育の場に、確実に根を下ろしつつあることがわかりました。

よって、関係各位のご理解・ご協力をいただきながら、今年度の経験と実績を踏まえ、来年度以降、継続して実施する方向で検討してまいります。併せて、次なる担い手にバトンタッチする環境づくりも、視野に入れたいと考えています。

## 【人と人・人とまちをつなぐ囲碁で、文化・知性・子どもたちの未来を拓く】

### 川越 igo まち倶楽部

〒350-1138 埼玉県川越市中台元町 2-7-12

TEL&FAX 049-245-3439 (事務局・木村) ✉ igomachi@ki-la.net ホームページ <https://igomachi.sakuraweb.com/>